

持続可能な資源利用 と社会関係

中島正博

NHKスペシャル 縄文文化

一万年間、続いた狩猟採集社会の資源利用

2015年11月8日放映

- 「私たちは**自然の資源**を縄文人のように**持続的に扱っていません**。その結果、**破綻が秒読みの段階**にきています。
- **縄文の知恵**から私たちは何を学べるのか。それは**自然を持続的に活用する方法**です。
- 私たちの子や孫だけでなく、**次の一万年を生きる人々のためにも学ばなければなりません**。」（ジャレット・ダイヤモンド）

自然資源を持続的に利用する方法を考え、持続可能な社会を実現しなければならない。

資源の利用と**社会関係**の過去・現在と将来 ～今後の持続可能な社会のために～



過去の自然資源の持続的利用と社会関係

近代化により資源の利用が爆発的に拡大

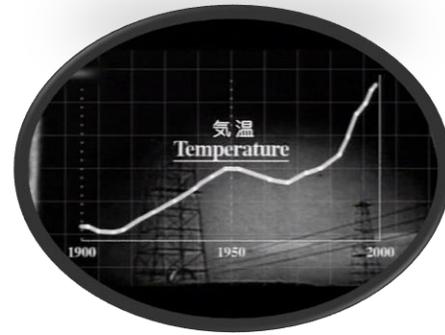
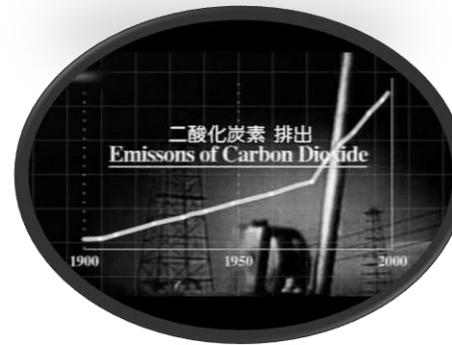
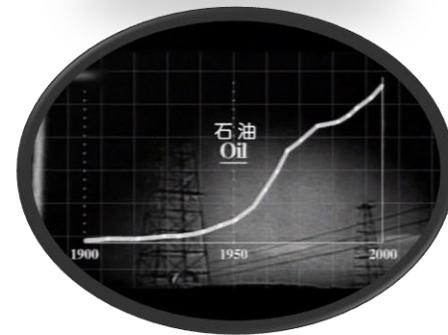
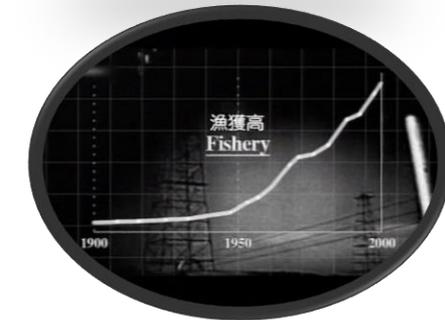
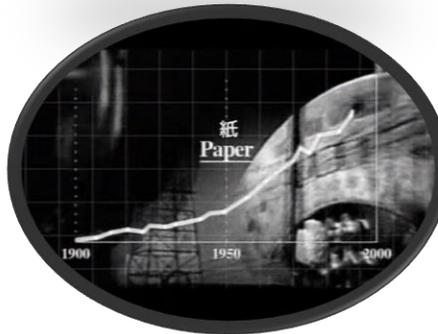
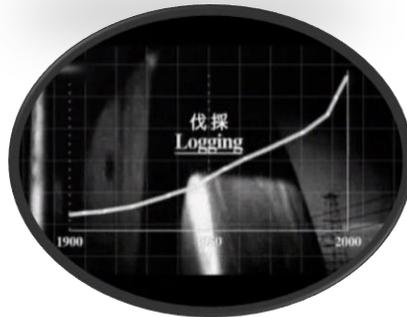
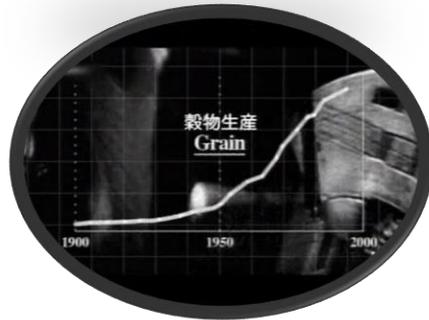
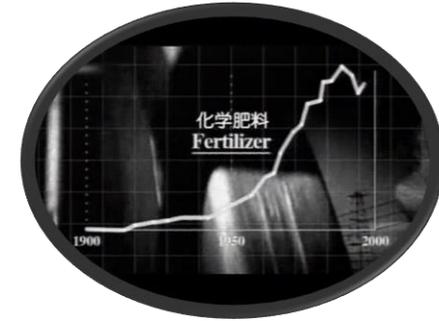
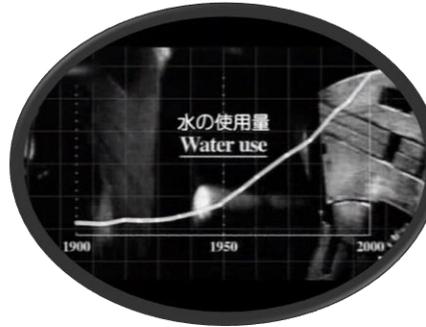
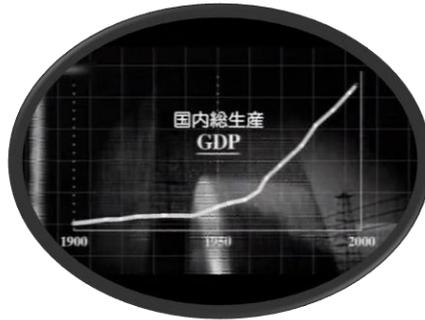
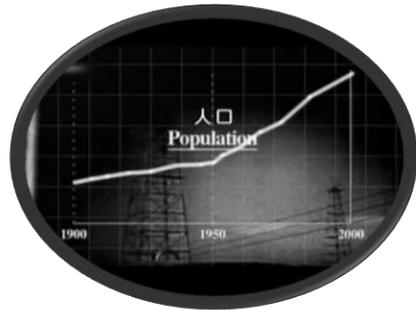
持続可能な資源消費は人類に対する責任



今後の持続的な資源利用のための社会関係

社会関係を作る基礎はコミュニティの再生

資源利用の爆発的拡大



縄文時代の自然利用は？

狩猟採集活動の特徴

- 山野河海の資源を網羅的にバランス良く利用。
- 嗜好による偏りが無い狩猟採集の活動。
- 自然生態系の多様性→健全な自然環境を維持。
- 縄文人の知恵→自然を持続的に利用。
- 縄文文化→社会的に協同して資源を維持・利用

縄文時代：資源を共同利用？

人口増大と生物資源の捕獲圧力

- 一万年→人口増大→資源は枯渇しなかった？
- **過剰捕獲**による資源の**減少**と、**捕獲制限**による個体群の**回復**が繰り返された。

捕獲制限（自己抑制）？

禁猟期間、禁猟区、メスや若い動物の禁猟など=**社会的な規制**を行った。

〈人—自然〉関係 ← 〈人—人〉共存の必要
〈**自然の利用**〉 ← 〈**社会関係**〉《**自然観**》

自然利用の背景に「社会関係」の存在

縄文人の共同(集合)行為の象徴 — 集会所？ 社会的な合意形成



近世：森林資源の需要が増大

- 江戸時代初期に全国的に森林資源が荒廃
 - 農村・都市人口増大 → 資源需要増大
 - 城郭・寺院・邸宅の建設
 - 都市の建設
- 森林資源の消費増大 → 森林が荒廃 → ?

近世：森林危機を如何に克服？

資源の利用を規制して資源を回復

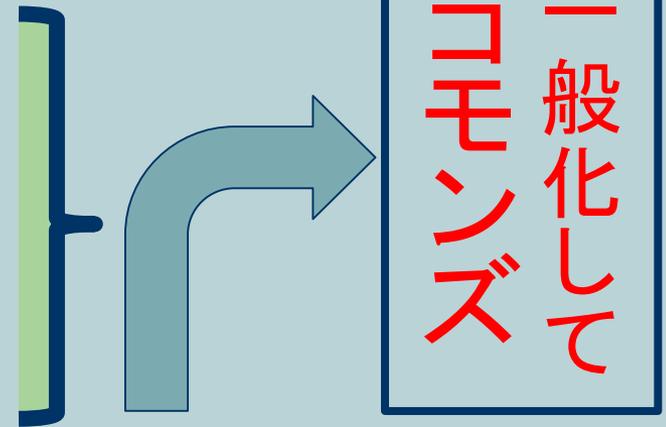
■ **支配者**による**利用規制**

- ①木材**生産**の山林、②生産物が**流通**する輸送ルート、
③生産物を**消費**する都市、農村において網羅的規制。

■ **農村共同体で共用(シェア)**する**利用規制**

- ✓ 森林の産物を収穫する場所、
- ✓ 収穫物の種類、大きさ、…、
- ✓ 収穫物の荷の大きさと数量、
- ✓ 運搬する手段など、…、

➤ 網羅的に資源の「**利用権**」を設定＝「**入会**」の発達。



コモンズ≡入会

背景の「社会関係」に注目

- 「コモンズ」≡「入会」の定義の一つ:「自然資源の共同管理制度、及び共同管理の対象である資源そのもの」。
- コモンズは、自然資源の伝統的な共同利用・管理の制度として、世界に存在。→持続的な資源利用をしてきた人類の知恵。
- コモンズや入会が成立する背景:「社会関係」を基礎にした資源の利用管理。社会が持つ共同性、集合性、連帯性、相互信頼が基礎。

持続的利用は個人の努力の結果？

- 資源の利用とその自制・抑制は「**社会関係**」の中で機能した。
- **個人**が資源利用を**自主的に抑制**したのではない。個人の帰属する**社会**が**文化的に抑制**させた。→ **社会関係**の中で持続的な利用が可能であった。
- ◆ 自然の持続的利用(**保全**)は**社会関係の結果**！

タイの環境NGOのロゴ

「魔法の目」
(magic eyes)があ
なたを見ている。

だから環境を大切に！

「社会の目」が環境保全
の動機になる。



ここで「社会関係」とは？

- 「社会関係」: 資源の利用者・管理者の**相互行為**が、特定の**慣習・規則**の下で行われる時、その当事者たちは一定の「社会関係」にある。

過去、自然資源の利用、荒廃、回復
を繰り返してきたが...

近代化 (明治以降)

により自然資源の利用に大異変！

近代化の影響：自然資源の所有権確立

近代国家の成立(明治)と共に、近代法で
自然(山野河海)の利用が制限された

- 近代法では権利・義務の主体は 個人 or 法人。共同体ではない → 村落共同体の入会制度と矛盾。
- 近代法 → 共同体が利用主体の「入会」を廃止。個人が利用主体になる「近代的所有権」を確立。⇒
- ⇒ 1873～1874年に実施した「山野官民有区分」により、山林原野の土地所有権を確立する政策を実施。
- 入会山林は、国有・公有・私有に区分され所有された。
⇒ 共同体の入会による山林の利用が激減。

近代・現代：資源消費の拡大要因は？

- **個人主義**：私的利用の拡大、**共同利用**の減少、資源多消費。
- **貨幣経済の拡大**：自然資源が貨幣経済の対象→消費拡大。
- **私の資源利用**：将来世代は不在→今の自分達の使い捨て。
- **都市化**：人と自然の距離が拡大→自然への感性が衰退。人間関係が希薄な都市社会→共同の資源利用が減少。
- **消費文化**：自給経済の衰退→市場経済（大量生産で安価）。
利便性促進・志向（快樂主義？）→飽食、貪欲。
- **自然観の変化**：人間の自然支配→大量消費。

先進国の過剰な資源消費 持続可能な資源消費は人類の責任

■ 国連 地球サミット（1992年）：リオデジャネイロ宣言

原則8：持続可能な開発を達成し、すべての人々が質の高い生活を実現するために、各国は、持続可能でない生産と消費の様式を減らし取り除き、...

■ 国連 持続可能な開発目標SDGs（2015年）：2030年までに達成すべき17の目標の一つ↓

目標12:責任ある消費と生産の確保 — 持続可能な消費と生産パターンの確保

「持続可能な消費と生産」を実現できるか？

- 「**資源消費の拡大要因**」を2030年までに取り除くことは不可能？
 - 曰く「一度手にした物質的豊かさは手放せない」「昔に戻れない」。
 - 資源を節約する技術開発は有望だが、根本的な解決ではない。
- それでは→**伝統的なコモンズ**のように、
- 資源の**私的利用/消費**を抑制できるか？
 - 資源の利用・消費を**社会的に抑制**できるか？
 - 資源を**共同利用**する「**社会関係**」を**創造**するか？（→**コモンズ**）
 - そのような「**社会関係**」が存在するか、**コモンズ**を開拓するか。

個人主義と市場が普及した現代：
資源利用・消費を「**社会関係の創造**」で
抑制し減少させられるか？

コモンズによる資源の持続的な利用管理が有望

THE COMMONS
Commoners and the Changing Commons: Livelihoods, Environmental Security, and Shared Knowledge
MONDAY, JUNE 3 – FRIDAY, JUNE 7, 2013
MT. FUJI, JAPAN

国際コモンズ学会第14回世界大会(北富士大会)
入会から世界を変える
—ひと・自然・暮らし・つながり—
日程: 2013年6月3日~7日
会場: ふじさんホール・富士吉田市民会館
富士Calm, etc

国際コモンズ学会
北富士大会

KitaFuji Conference

PROGRAM
IASC 2013 The 14th Global Conference of the International Association for the Study of the Commons (IASC 2013)
www.iasc2013.org

2009年のノーベル経済学賞

コモンズの理念の再評価

GOVERNING
the COMMONS

ELINOR OSTROM

The Evolution of Institutions for Collective Action
共同(集合)行為

広島市立大学附属図書館

入会・コモンズ

Political Economy of Institutions and Decisions

新たな動向！

電力小売り自由化：生産者と消費者の協働
資源の**共同生産・消費（コモンズ）**の機会！

- ✓再生可能エネルギー：ソーラー、バイオガス、水力などの**生産者**。
- ✓火力発電エネルギーの**生産者**。
- ✓原子力発電エネルギーの**生産者**。
- **消費者はどのエネルギー**を購入するか選べる。
- 選んで購入→**生産者の価値観**を選ぶこと。
- **消費者**が自然との共生、持続可能な社会などの**価値観を生産者と共有**→共同生産。
- 消費者が望むエネルギーを共同生産する、**シェアエコノミー（共有経済）**の一つ。

消費の**拡大**→**縮小要因**(1)

社会関係の変化を示す萌芽

- **個人主義**→**共同志向**：シェアリング・エコノミー（カーシェアリング、シェアオフィス、シェアハウス、民泊、カープール）、ボランティア活動、共同（ウォームビズ、クールビズ、「Table for Two」飽食→共食）、……
- **貨幣経済拡大**→**助け合いの力**：NPO、コミュニティカフェ、…
- **私の資源利用**→**地球レベル・長期的視野で資源利用**：温暖化対策、持続可能な社会、持続可能な開発が不可避、…
- **都市化**→**田園回帰**：自然を志向する人びとの増大、……

消費の**拡大**→**縮小要因**(2)

社会関係の変化を示す萌芽

- **消費社会**→**生活の質**:モノ→ココロの豊かさ。モノ→コト(体験や知識、思い出、人間関係)、……
- **モノの生産消費**→**善の生産消費**(相互扶助):人びとの交流、NPO、社会的企業、クラウドファンディング、……
- **自然の搾取的利用**→**自然の賢明な利用**:有機農業、自然と共存する余暇活動、自然による癒しを志向、……
- **持続的な資源消費+豊かな人間関係(幸福の源泉)**

「**社会関係の調整**」は進行中 生産と消費の協働（→→コモンズ化）

- **経済倫理**: 三方よし(売り手よし、買い手よし、**世間よし・CSR**)
- **シェアリング・エコノミー**: 共有型経済←生産者/消費者の協働
- **NPO、社会企業**: 消費者の**社会的利益**を生産する関係
- **地産地消**: 地域で生産者・消費者の利益を共有
- **フェアトレード**: 生産者、流通、消費者協働。**フェアトレードタウン**:
都市市民の共感→フェアトレードを地域社会で促進
- **資源保全**: 生産者と消費者がエコマークで価値観を共有

社会関係創造のためには？ 今後のコミュニティ再生が課題

人間関係が希薄化した現代社会を変革：

- **社会関係**を築く基礎：人との繋がり、絆づくり。
- 市民の協働（コモンズ）の基礎：市民同士の**共感**。
- 市民団体、NPO、社会企業などの**協働**、**利他的活動**。



コミュニティ再生・創造



シェアリング・エコノミーの拡大

持続的資源利用 → 持続可能な社会へ

ありがとうございました。

終